

# 2021年3月期 決算の概要

2021年5月14日



DAISHI HOKUETSU  
Financial Group

第四北越フィナンシャルグループ

※ 第四北越フィナンシャルグループを「第四北越FG」または「FG」と記載しております


目次	1
主なポイント	2
2021年3月期決算 概要	3
貸出金残高・利回り等	5
預金等残高・預かり資産残高	6
非金利収益分野	7
有価証券	8
不良債権／信用コスト	9
自己資本比率	10
2022年3月期 業績予想	11

**【計数の表示方法について】**


2021年1月1日付で、当社の完全子会社である第四銀行及び北越銀行は、第四銀行を存続会社、北越銀行を消滅会社として合併を行い、商号を第四北越銀行に変更しております。本資料における第四北越銀行の計数につきましては、各項目の適正な期間比較を行う観点から、下記のルールに則り算出した計数を記載しております。

- ・2021年3月期の計数  
2020年4月～12月の第四銀行及び北越銀行の計数と、2021年1月以降の第四北越銀行の計数を単純合算
- ・2021年3月末の計数  
第四北越銀行の計数
- ・2019年3月期、2020年3月期、2019年3月末、2020年3月末（自己資本比率を除く）の計数  
第四銀行及び北越銀行の計数を単純合算
- ・2019年3月末、2020年3月末（自己資本比率）の計数  
第四銀行及び北越銀行のそれぞれの計数

## 2021年3月期決算

- 
- 新型コロナウイルスの影響による経済活動の停滞と営業活動の制約がある中、銀行合併・システム事務統合プロジェクトを無事成功させるとともに、FG連結当期純利益は2020年5月公表の業績予想を上回る実績を確保
  - 新型コロナウイルス感染拡大への対応では、経営理念に基づき、地域経済の下支えとして金融の目詰まりを防ぐことを最優先とし、積極的な資金繰り支援と、FGグループの機能を最大限活用した多面的なご支援に取り組み、新潟県内の貸出平残は前年比+490億円増加
  - FG連結自己資本比率は前年比+0.62ptの10.27%と十分な水準を確保

## 2022年3月期業績予想

- 
- FG連結当期純利益は前年比+2億円（+1.8%）増益の110億円を予想
  - 新型コロナウイルスの影響を踏まえネット信用コストを保守的に織り込むほか、有価証券関係損益の減少を見込む。一方、経営統合関連費用の減少等によるコストの削減や、銀行合併・システム事務統合に振り向けていたマンパワーを営業活動にシフトし活動量を増強させ、グループ一体となってトップラインを押し上げることにより増益を見込む

# 2021年3月期決算 概要 (損益の状況)

## ■ FG連結の経常利益、当期純利益のいずれも2020年5月公表の業績予想を上回る

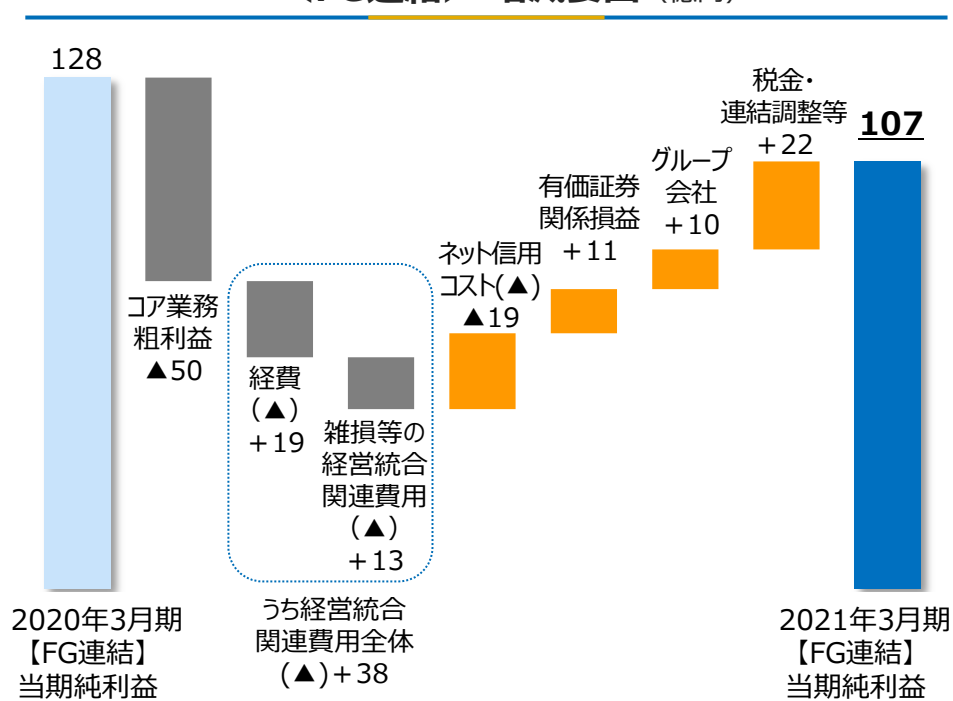
FG連結 (億円)	2021年3月期 決算		業績予想 (2020/5公表)	
	前年比	業績予想比		
1 経常利益	175	▲19	148	27
2 当期純利益※ <sup>1</sup>	107	▲20	105	2

※<sup>1</sup> 親会社株主に帰属する当期純利益

銀行単体 (億円)	2021年3月期		2020年3月期
	決算	前年比	決算
3 業務粗利益	764	▲57	822
4 (コア業務粗利益)	812	▲50	863
5 資金利益	623	▲35	658
6 (うち貸出金利息)	458	▲11	469
7 (うち有価証券利息配当金)	189	▲52	241
8 (うち資金調達費用)	30	▲28	58
9 役務取引等利益	145	5	139
10 その他業務利益	▲3	▲27	23
11 (除く国債等債券損益)	44	▲21	65
12 (うち国債等債券損益)	▲47	▲6	▲41
13 経費	659	19	640
14 実質業務純益	105	▲76	181
15 コア業務純益	152	▲70	222
16 (除く投資信託解約損益)	152	▲70	222
17 業務純益	93	▲82	176
18 臨時損益	54	22	32
19 経常利益	147	▲60	208
20 特別損益	2	3	▲0
21 当期純利益	101	▲52	153
22 <ネット信用コスト>	38	▲19	57
23 <有価証券関係損益>	61	11	49
24 <経営統合関連費用(全体)>※ <sup>2</sup>	67	38	29

※<sup>2</sup> 「経費」「臨時損益」に計上されている経営統合関連費用の合計

### <FG連結> 増減要因 (億円)



## <参考> 銀行単体の前年比増減要因 第四北越銀行

### コア業務粗利益【前年比▲50億円】

- 資金利益：▲35億円
  - 貸出金利息：▲11億円  
(残高要因：▲5億円 利回り要因：▲6億円)
  - 有価証券利息配当金：▲52億円
  - 資金調達費用（預金利息、外貨調達費用等）：▲28億円
- 役務取引等利益：+5億円 ①
- その他業務利益（除く国債等債券損益）：▲21億円 ②
- ・ 非金利収益 合計（①+②）：▲15億円
  - 資産運用アドバイス収益：+6億円
  - 金融ソリューション収益：▲7億円
  - 貸出債権売却益：▲16億円

### 経費【前年比+19億円】

- 人件費：+0億円
- 物件費：+13億円
- 税金：+4億円

### ネット信用コスト【前年比▲19億円】

- 一般貸倒引当金繰入額（▲）：+6億円
- 不良債権処理額（▲）：▲20億円
- 償却債権取立益：+5億円

### 有価証券関係損益【前年比+11億円】

- 国債等債券損益：▲6億円
- 株式等関係損益：+18億円

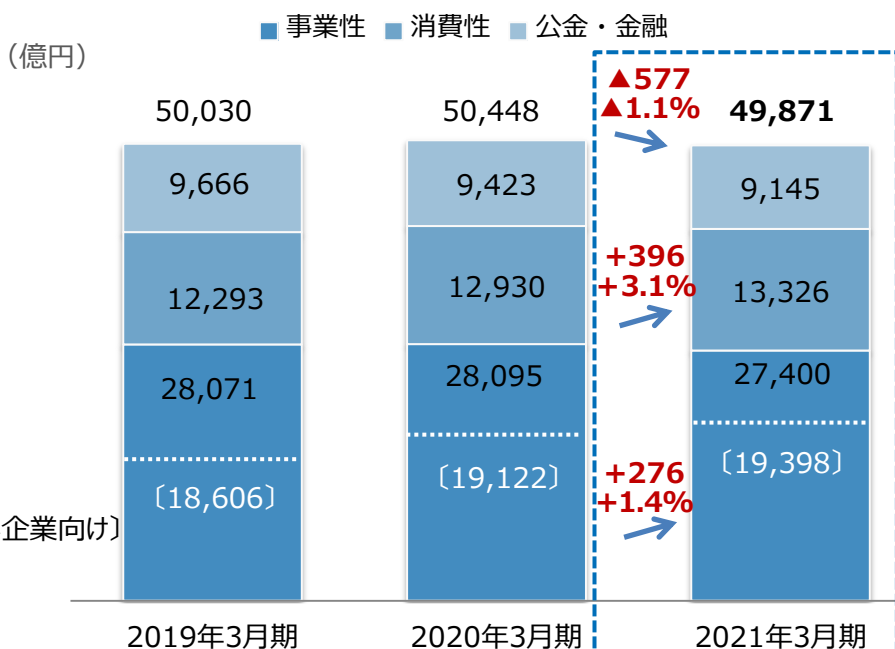
### 経営統合関連費用（全体）【前年比+38億円】

- システム・事務統合等の物件費、税金：+25億円
- 雑損等（システムベンダー等への支払など）：+13億円

- 新型コロナウイルス感染拡大への対応では、経営理念に基づき、新潟県経済の下支えを最優先とし、地域経済の金融の目詰まりを防ぐとともに、グループ会社が持つ機能も積極的に活用した多面的なご支援を実施
- 中小企業向け貸出（前年比+276億円）、消費性残高（同+396億円）はいずれも順調に増加
- 新潟県内貸出も前年比+490億円（うち中小企業向け貸出同+474億円）と順調に増加

## 貸出金残高（平残）

※部分直接償却前



〔参考〕  
うち中小企業向け

項目	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期
新潟県内貸出	36,936	37,755	38,245
（うち中小企業向け）	14,575	15,048	15,048
（うち消費性）	12,129	12,516	12,516

変化率（前年比）：  
 新潟県内貸出: +1.3% (+490)  
 うち中小企業向け: +3.2% (+474)  
 うち消費性: +3.2% (+387)

## 新型コロナウイルスに関する対応

（2021年3月までの累計）

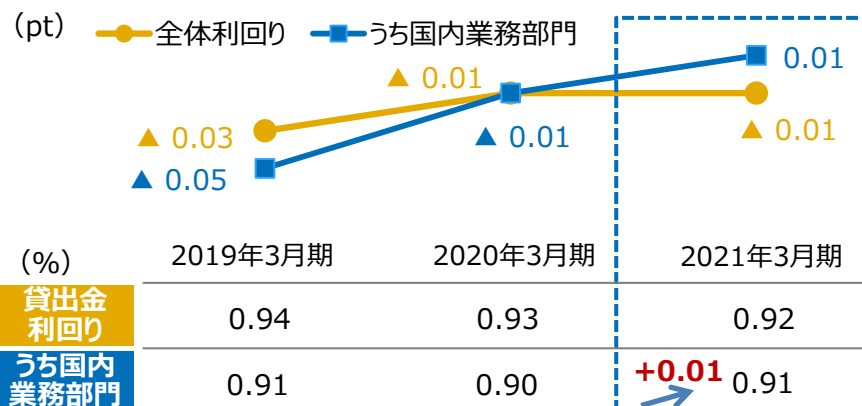
【事業性貸出】新型コロナウイルス関連融資と条件変更の対応状況（実行分）

単位：件、億円	件数	金額
新規融資	9,587	2,541
うち 保証協会付	8,965	1,632
条件変更	1,109	733

【消費性貸出】新型コロナウイルスの影響による住宅ローンの条件変更の対応状況（実行分）

単位：件、億円	件数	金額
条件変更	184	37

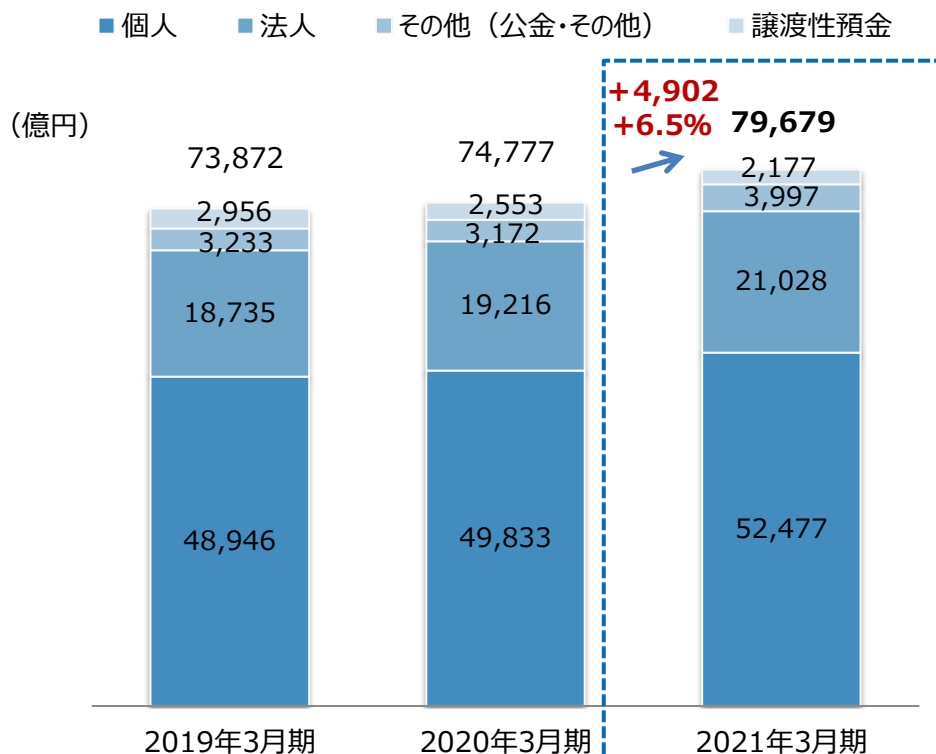
## 貸出金利回りの増減推移



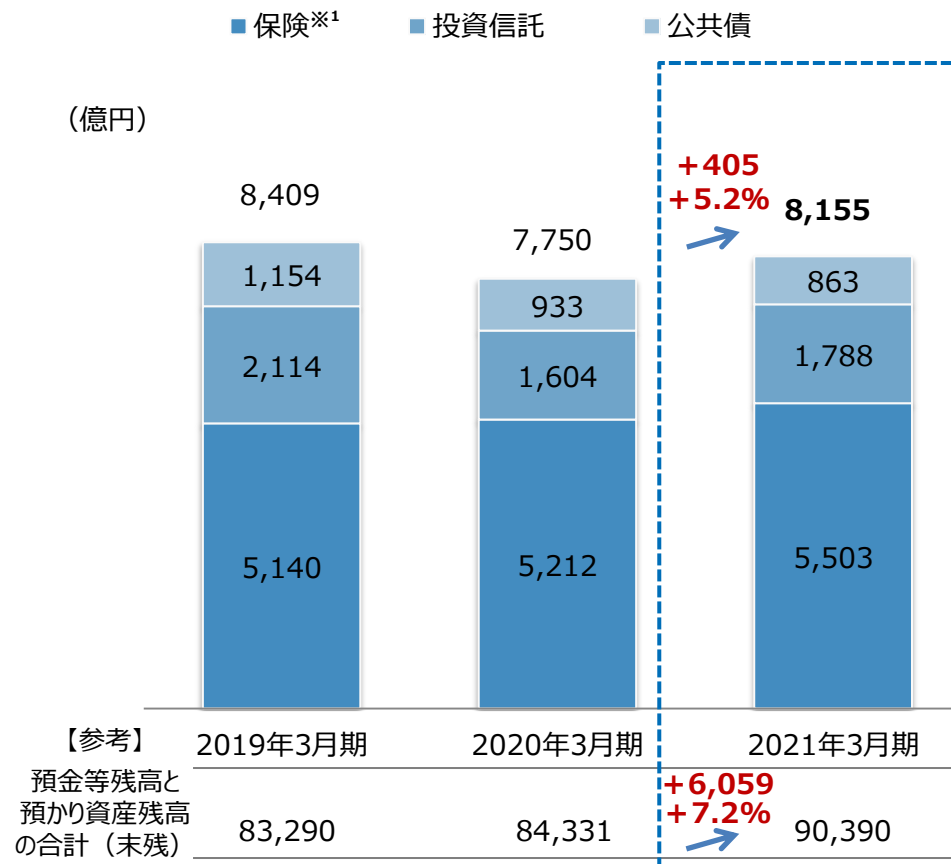
# 預金等残高・預かり資産残高

- 預金等残高（平残）は、前年比+4,902億円と堅調に推移
- 預かり資産残高（末残）は、投資信託、保険が順調に増加し、全体では前年度末比+405億円
- 預金等預かり資産の合計残高（末残）は、9兆390億円

## 預金等（含む譲渡性預金）残高（平残）



## 預かり資産残高（末残）



※1：保険残高については、子銀行の合併に伴い算出方法を統一したため、過年度との比較の観点から、過去に遡り変更した計数との比較を記載しております。

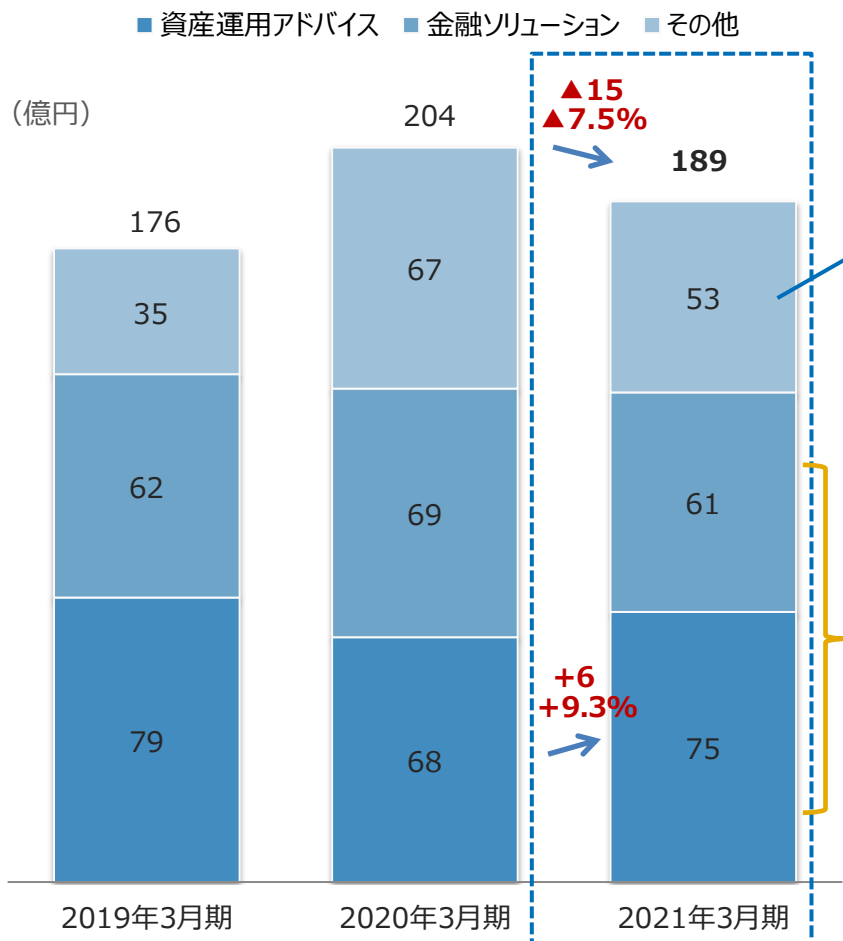


# 非金利収益分野

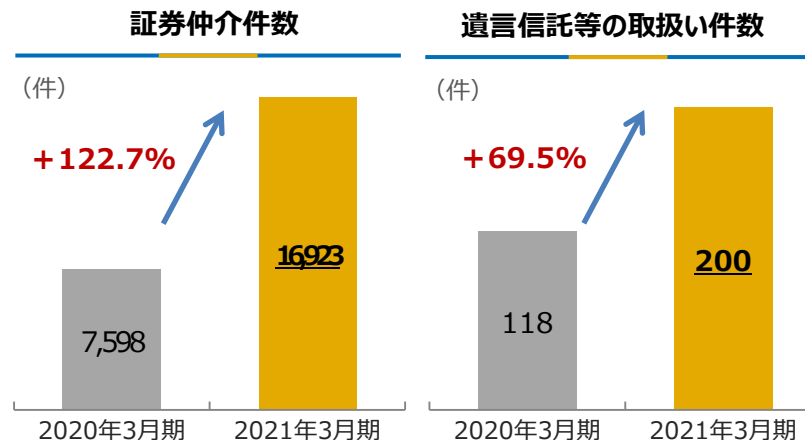
(役務取引等利益 + その他業務利益 (除く国債等債券損益) の合計)

- 経営統合により拡大した営業・顧客基盤とグループ各社のノウハウ・ネットワークの最大限の活用により、第四北越証券との証券仲介件数が前年比 +122% となるなど、付加価値の高い金融仲介機能および情報仲介機能を発揮
- 前年の一過性要因 (貸出債権売却益) を除く非金利収益全体では、コロナ禍においても概ね前年水準を確保

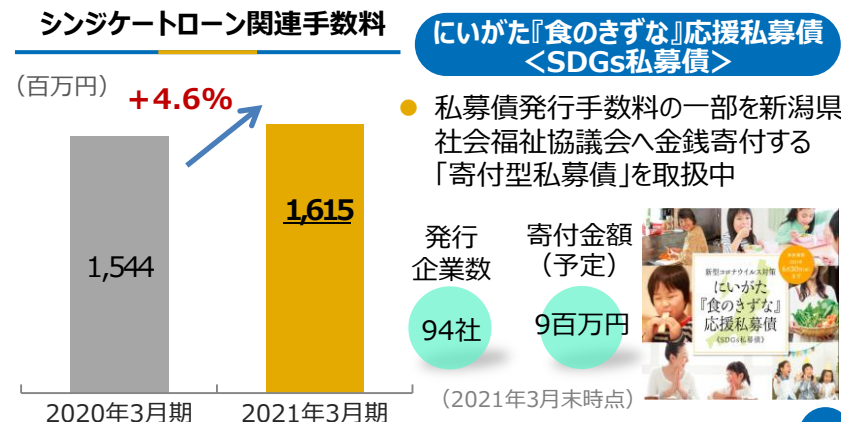
## 非金利収益



## 資産運用アドバイス



## 金融ソリューション収益



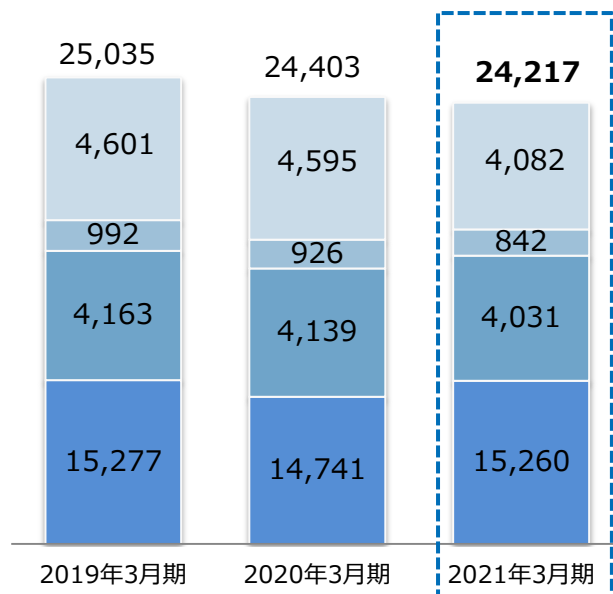


■ 有価証券残高は国内外の株式・債券等への分散投資を継続し、前年比▲185億円の24,217億円

■ 有価証券利息配当金は、国内債券の受取利息の減少や株式の受取配当金の減少により、前年比▲52億円の189億円

## 有価証券残高（平残）

■ 国内債券 ■ 外国証券 ■ 株式 ■ その他証券  
(億円)



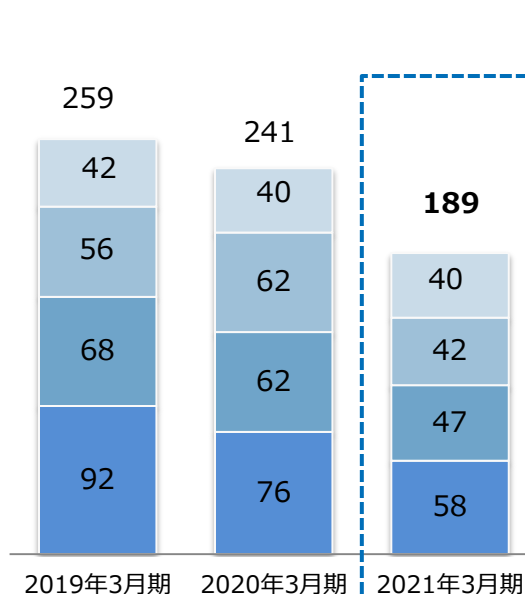
利回り	1.03%	0.98%	0.78%
-----	-------	-------	-------

デュレーション	(円債) 4.74年 (外債) 5.73年	5.31年 4.83年	5.99年 4.44年
---------	--------------------------	----------------	----------------

※デュレーションはヘッジ目的の金利スワップ考慮後

## 有価証券利息配当金

■ 国内債券 ■ 外国証券 ■ 株式 ■ その他証券  
(億円)



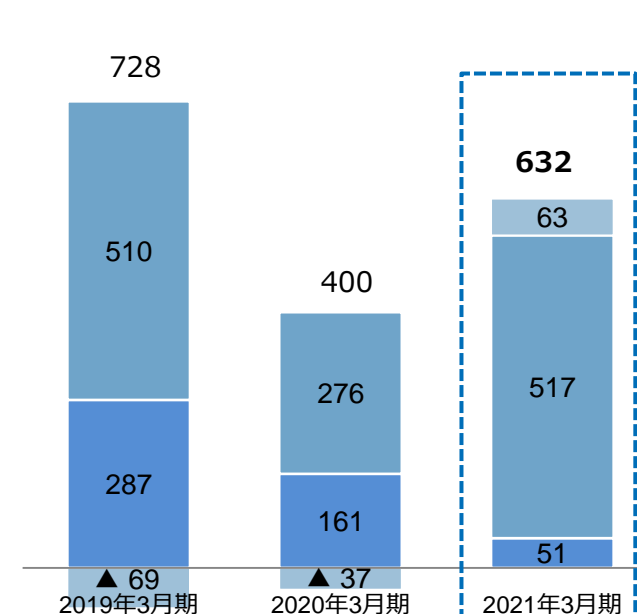
計画比	+3	+12	+7
-----	----	-----	----

計画比ではプラス

※計画比は外貨調達等コスト考慮後で表示

## 評価損益

■ 国内債券 ■ 株式 ■ その他（外国証券、投信他）  
(億円)



世界的な金融緩和や財政出動から、国内外の株式が上昇し、前年度末比231億円増加の632億円

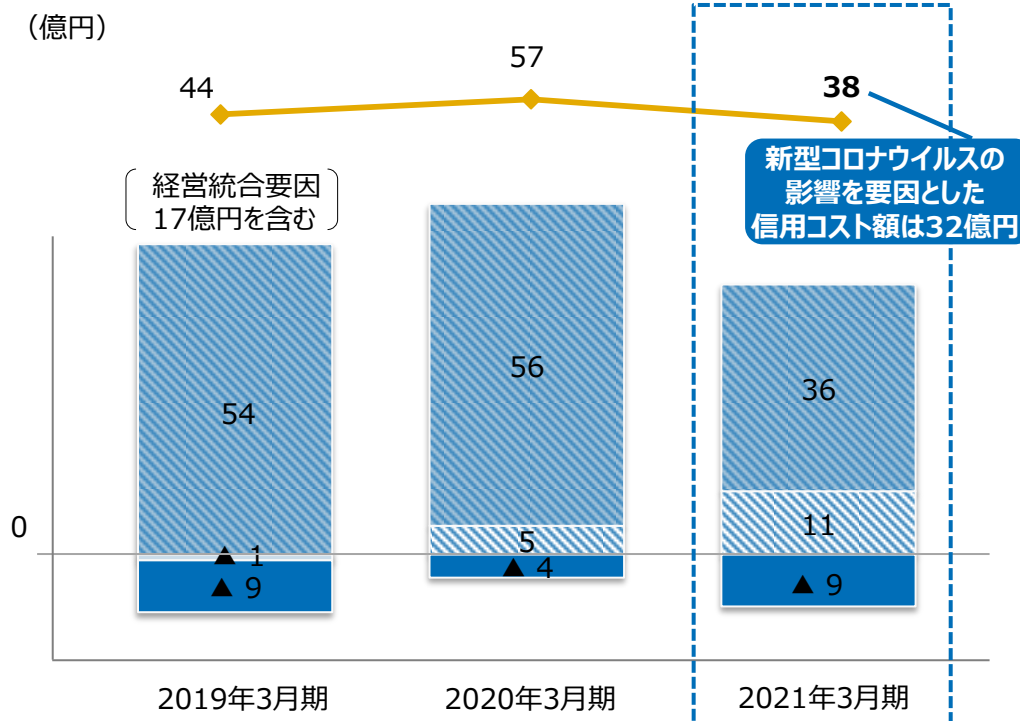
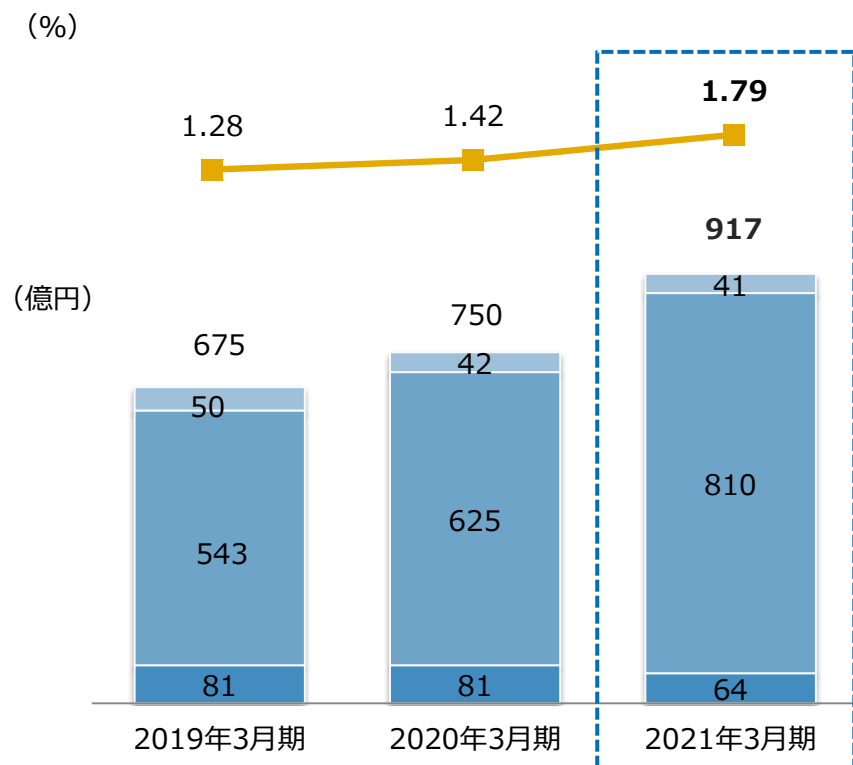
- 不良債権額は前年比+167億円の917億円、不良債権比率は同+0.37ptの1.79%
- ネット信用コストは不良債権処理額の減少と償却債権取立益の増加により前年比▲19億円の38億円
- 新型コロナウイルスの影響が長期化するなか、営業店・本部が連携した十分な実態把握に基づく多面的なご支援によりお取引先のランクダウンを防止

## 不良債権額と不良債権比率

## ネット信用コスト

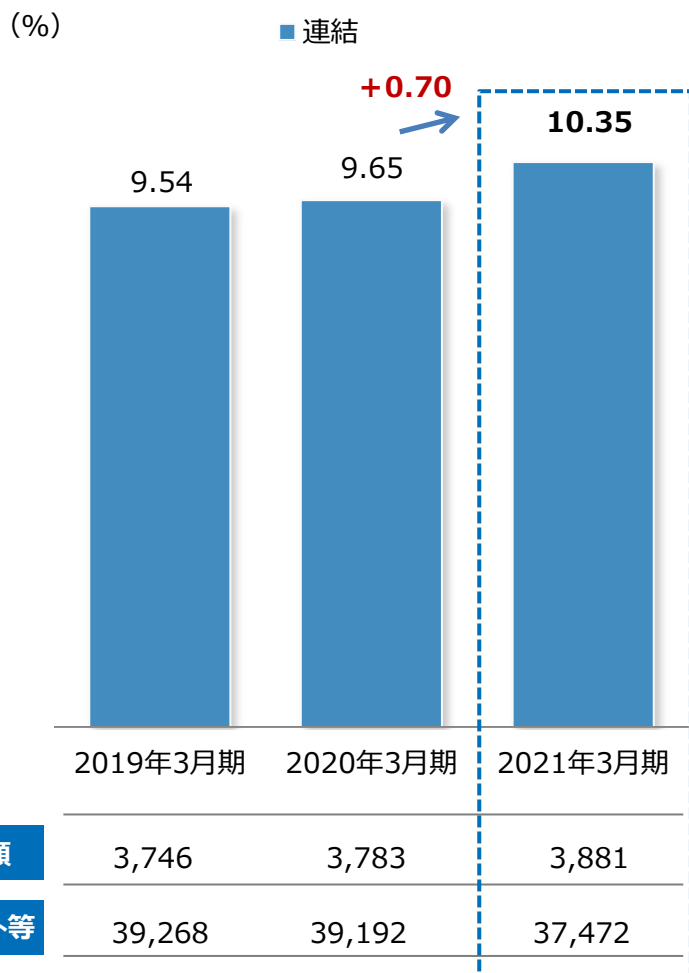
■ 破産更生等債権 ■ 危険債権 ■ 要管理債権 ■ 不良債権比率

■ 一般貸倒引当金繰入額 ■ 不良債権処理額  
■ 貸倒引当金戻入益 (▲) ■ 偶発損失引当金戻入益 (▲)  
■ 償却債権取立益 (▲) ■ ネット信用コスト

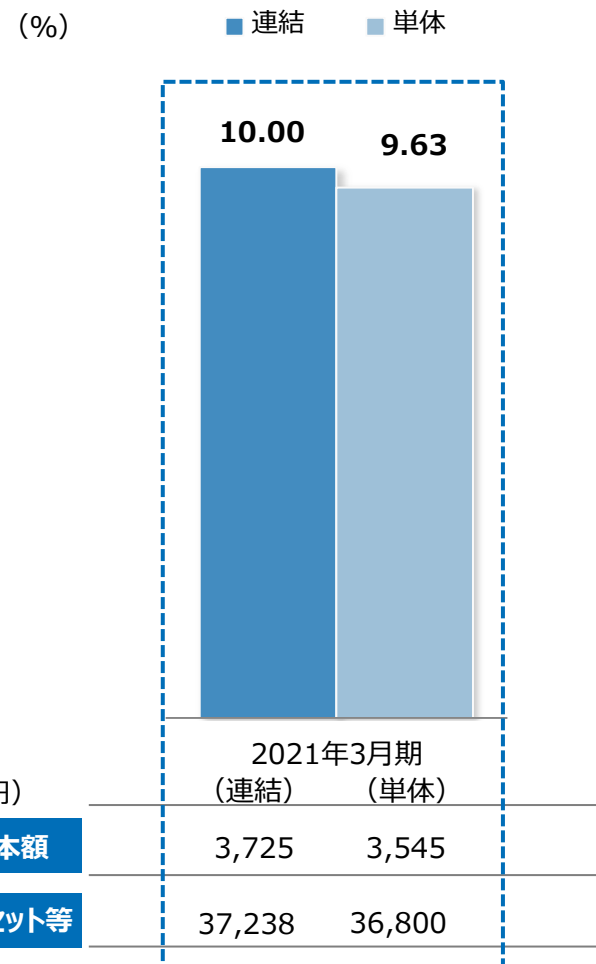


■ FG連結での自己資本比率は、前年度末比+0.70ptの10.35%と十分な水準を確保

## FG連結



## 第四北越銀行

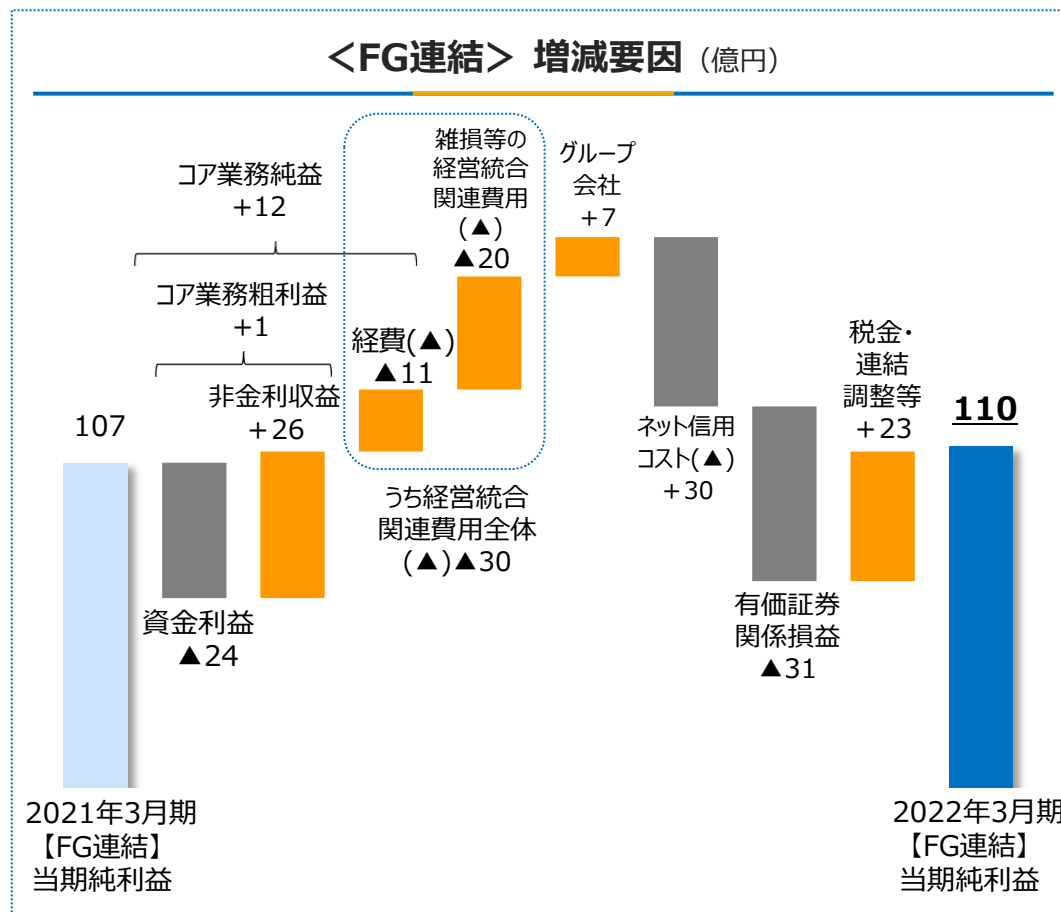


- FG連結の当期純利益は前年比+2億円の110億円を見込む
- 新型コロナウイルスの影響を踏まえネット信用コストを保守的に織り込むほか、有価証券関係損益の減少を見込む。一方、経営統合関連費用の減少等によるコストの削減や、銀行合併・システム事務統合に振り向けていたマンパワーを営業活動にシフトし活動量を増強させ、グループ一体となってトップラインを押し上げることにより増益を見込む

FG連結 (億円)	2022年3月期 業績予想	前年比
1 経常利益	171	▲ 4
2 当期純利益※ <sup>1</sup>	110	2

※<sup>1</sup> 親会社株主に帰属する当期純利益

銀行単体 (億円)	2022年3月期 業績予想	前年比
3 コア業務粗利益	813	1
4 資金利益	598	▲ 24
5 役務取引等利益およびその他業務利益 (除く国債等債券損益)	215	26
6 経費	648	▲ 11
7 コア業務純益	165	12
8 経常利益	125	▲ 22
9 当期純利益	87	▲ 14
10 <ネット信用コスト>	68	30
11 <有価証券関係損益>	30	▲ 31
12 <経営統合関連費用>	37	▲ 30





**DAISHI HOKUETSU**  
Financial Group

**第四北越フィナンシャルグループ**

**お問い合わせ先**

**第四北越フィナンシャルグループ**

**経営企画部**

**TEL 025-224-7111**

**E-mail g113001@dhbk.co.jp**

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。